

算数 1次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評
		受験者	合格者	
【1】	(1)	93.4	92.7	本年も四則演算を含む小問集合6題の出題であった。例年だと正答率が9割を超える問題が並ぶが、今回は(3)の塗分けの問題や(6)の平面図形の面積比を問う問題で正答率が低くなった。それ以外部分はシンプルで確実に得点しなければいけない問題。
	(2)	89.8	97.6	
	(3)	52.6	65.9	
	(4)	78.6	92.7	
	(5)	91.3	96.3	
	(6)	21.4	37.8	
【2】	(1)	71.9	86.6	速さの基本的な問題。取りこぼしは避けなければいけない問題。
	(2)	60.2	75.6	
【3】	(1)	30.1	42.7	空間図形の問題で、正答率は全体的に低くなった。図が一般的な状況を表しており、(1)では60度という条件があったが、図に惑わされず改めて図を自分で書けるかどうかのポイント。(2)ではどの
	(2)	5.1	4.9	
【4】	(1)	43.9	62.2	2種類の重りをいくつかずつ組み合わせて新しい重さを作る整数問題。(2)の方が問われていることが具体的だったので、解き易かったのか、正答率が高くなった。
	(2)	62.8	79.3	
【5】	(1)	87.8	98.8	三平方の定理を利用した問題。(1)はパズル感覚で解けるもので、正答率も高い。(2)は複数の解法が考えられ、多くの受験生が部分点を獲得できていた。手際よく処理する工夫と解答の表現力が求
	(2)	40.9	55.7	
【6】	(1)	19.0	33.4	2つの容器に入った水を互いに移動させる操作を複数回行う問題。操作はシンプルだが計算は煩雑であり、正答率は低くなった。
	(2)	11.4	21.3	

算数特選 正答率・講評

問題	正答率 (%)		講評	
		受験者		合格者
【1】	(1)	83.0	99.1	流水算の定番問題。計算はやや煩雑であったが、正答率も高く、取りこぼせない問題だった。
	(2)	62.3	89.0	
【2】	(1)	93.4	96.8	規則性の問題。図形の規則より、取り出した数列から規則を見出すほうが規則を把握しやすいだろう。これも正答率が高く、取りこぼしを避けなければいけない問題だった。
	(2)	68.6	87.6	
【3】	(1)	84.6	98.1	直方体の面上の最短経路の問題。(1)は易しく、取りこぼせない問題だった。一方、(2)は難易度も高く、答えがいくつある分からないため、解答を過不足なく絞るのも苦労したと思われる。「直
	(2)	6.5	10.5	
【4】	(1)	32.1	52.4	食塩水の濃度に関する応用題で、合格者と不合格者の正答率の差が大きく出ており、合否を分ける問題となった。
	(2)	21.6	38.0	
【5】	(1)	91.8	98.2	立体図形の問題。(1)は基礎問題で正答率も高い。一方で(2)は難易度が高く、ほとんどの受験生ができなかった。結果的に合否には影響のない問題であった。
	(2)	1.1	1.5	

算数 2次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評
		受験者	合格者	
【1】	(1)	88.6	93.1	例年通り、四則演算を含む小問集合6題の出題であった。(3)の速さの問題で正答率が低くなったが、全体的にははシンプルな出題であり、確実に得点しなければいけない問題。
	(2)	87.7	96.3	
	(3)	90.1	94.4	
	(4)	77.0	83.8	
	(5)	53.5	66.7	
	(6)	72.4	84.3	
【2】	(1)	81.8	88.9	比の典型的な問題。(1)も(2)も解き易く、取りこぼしは避けなければいけない問題。
	(2)	86.0	95.4	
【3】	(1)	84.7	94.0	立体図形の問題。(1)は2つ問われていることがあり、面の形は詳しく答える必要がある。(2)は相似な立体を見つけ出せるかどうかポイントであった。
	(2)	55.2	68.5	
【4】	(1)	90.8	94.4	つるかめ算の応用問題。(1)はシンプルな問題で正答率も高かった。(2)は条件を把握し、答えを絞れるかがポイントであった。
	(2)	66.8	81.5	
【5】	(1)	70.4	84.8	3つの四分円が長方形の中にある平面図形の応用題。(1)は正答率が高かった。(2)は「ア」の部分の図形は、よくある定番の正方形の中の2つの四分円の共通部分と勘違いしている答案も散見された。共通部分について正確に把握できるかがポイントであった。
	(2)	19.6	32.8	
【6】	(1)	92.2	97.3	整数の問題で、テーマは「ユークリッドの互除法」。(1)は正方形の切り分けの仕組みを理解できるかを問う問題で正答率は高かった。(2)では(1)の考え方を利用すればスムーズに答えを求められる。
	(2)	79.7	91.5	

算数 3次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評
		受験者	合格者	
【1】	(1)	85.8	93.2	例年通り、四則演算を含む小問集合6題の出題であった。(3)速さの問題と(4)場合の数で正答率が低くなったが、全体的にはシンプルな出題であり、高得点しなければいけない問題。
	(2)	90.0	100	
	(3)	42.5	70.5	
	(4)	48.4	75.0	
	(5)	63.9	79.5	
	(6)	68.5	93.2	
【2】	(1)	80.8	95.5	過不足算の問題。状況がシンプルで解き易く、取りこぼしは避けなければいけない問題。
	(2)	69.9	97.7	
【3】	(1)	58.0	95.5	平面図形の比の問題。相似な図形や等積な三角形を見つけられるかがポイントだった。
	(2)	21.9	54.5	
【4】	(1)	34.7	65.9	ニュートン算の応用。ニュートン算自体は定番ではあるが、新傾向の問題だったので、戸惑った受験生も多かったようだ。
	(2)	12.3	29.5	
【5】	(1)	46.8	71.8	速さの応用問題。問われていることを答えるために、何が求めればよいのか思考を深める必要がある。(1)の出来が合否を分ける問題となった。(2)は合否に影響はなかっただろう。
	(2)	7.4	11.7	
【6】	(1)	73.5	88.0	立体図形の問題。回転体の体積を求める問題は定番であり、(1)は多くの受験生が正解した。一方で(2)は回転させる台形が軸に対して斜めになっており、回転体のイメージが湧きにくかったようで正答率は低くなった。
	(2)	7.2	21.4	